

令和 6 年度第 2 回城東区区政会議（地域福祉部会）

日時：令和 7 年 1 月 22 日
19 時 30 分～20 時 30 分

○弟子丸部会長

それでは地域部、福祉部会を始めさせていただきます。

部会長の弟子丸と申します。よろしくお願いします。

早々部会の議論に入らせていただきます。

先ほど、本会で説明がありました令和 7 年度城東区運営方針案、令和 7 年度城東区関連予算、事業概要説明に関して、委員の皆様のご意見をいただきたく存じますので、よろしくお願いします。

今日はね、ちょっと 3 か 4 名、委員さんが 4 名参加ということで、そしてあとちょうど 1 時間ぐらい時間もありますので、ご意見を、発言をお願いしたいと思います。

まず先ほどの、部会、令和 7 年度の城東区運営方針案、それから事業の概要、予算と事業の概要説明ですが何かございましたか。

どうですか、全体としてね。

いいですか。

またじゃあもう少し、そう。

続きましては地域福祉部会として、経営課題 4 の地域が支えあい住みなれた場所で安心して暮らせるまちに関することを中心にご意見を伺っていきます。

そして今から、先ほど資料を配りました部会の追加資料での資料の説明について、椿谷課長よりよろしくお願いします。

○椿谷保健福祉課長

保健福祉課長の椿谷でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

先ほど追加で、A4 の 2 枚ものを配らせていただいております。

これ地域福祉プランと申しまして、令和 4 年度から 6 年度ですね、3 ヶ年の計画を立てておりまして、これに基づいて福祉政策を進めてるわけでございますけれども、ちょうど今年度が最終年度になりまして、来年度からの新しい計画の骨子的なものです。

まだちょっとどこにも出しておらないんですけれども、現時点で新計画改定の骨子的なものを少し説明をさせていただきます、そのあとにこの経営課題とか、これも含めてですね、いろいろご意見ちょうだいできたらなというふうに思っております。

まず最初でございますけれども、目指す姿といたしましては複雑多様化、福祉課題についてはしておりますので、そのような中、地域共生社会を実現していくというところでございます。

まず現状でございますけれども高齢化ですね、非常に進行しておるところでございます。

また孤立化ですね、地域の繋がり希薄化なんかも進んでおります。

また福祉課題がですね、複雑多様化しているというのが現状かなというふうに思っております。

そのような中でですね、目指すべき地域共生社会の実現に向けまして、その下にありますような 4 つの柱のもとに、施策を進めて参りたいというふうに思っています。

1 つは高齢者対策ということで、高齢者が最後まで安心して暮らせるまち、それから次に障がい者対策ということで、障がい者の皆さんが豊かな人生を過ごせるまちづくり、そして 3 つ目といたしまして子どもが安全安心に暮らせるまちづくり、その 3 つの柱に加えてですね、福祉課題も複雑多様化しておりますので、横串を刺すような形で、様々な多様化する福祉課題に対応して、包括的な支援体制を充実をしていきたいというふうに、その 4 つの柱で組み立てております。

続きまして柱ごとに、具体的な取り組みをですね、説明をさせていただきます。

ページめくっていただきまして、まず高齢者のところでございます。

先ほど申しましたように高齢者の皆さん非常に増加をしております。

団塊の世代の皆さんが 75 歳を迎えまして、非常に人口の大きい層が後期高齢の方に入っておりますので、一気に高齢化が進んでいるという状況でございます。

また単身の高齢者の方も非常に多くなっているという現状がございます。

またこの高齢化につきましては地域差も結構大きくありまして、城東区で 25.5% ぐらいでございますけれども、地域によってはそれよりはかなり低い地域とまたかなり進んでる、高齢化率の高い地域もあり地域によって、この高齢化率も差があるという現状がございます。

今後の方向性でございますけれども、こういう後期高齢者の方が非常に増えていく中でやはり認知症対策の強化というのが非常に重要な視点かなと思っておりまして、チームオレンジサポーターってということで、認知症サポーターにもう少し研修を受けたような方々がチームで支えていくような、そういう体制づくりを進めていきたいというのが 1 点目。

もう 1 つアウトリーチによる見守り支援の強化ということでございます。

地域の繋がりがだんだん希薄化してですね、どうしても閉じこもりがちの高齢者の皆さんも非常に多くいらっしゃいます。

どうしても問題がですね、こもってしまうようなこともございますので、できるだけこちらの方からですね、進んで見守りを進めていくような体制も強化をしていきたいというふうに思っています。

あと平常時の見守りも重要でございますけれども、南海トラフ地震のリスクも非常に大きくなってきておりますので、災害時にそういう要配慮者の方をどう支援していくのかというところ。

このあたりを研修とか講演会なんかで勉強していきながら、できればモデル訓練みたいなものをですね、進めていければと思っております。

あともう 1 つ地域包括ケアシステム。

高齢化が進みますとだんだん認知機能が衰えてきたり、身体機能が衰えて参ります。

そうした中で、その認知機能が衰える前にですね、最終段階になってどういう医療ケアを受けたいのかとか、介護ケアを受けたいのかっていうのを事前にいろいろその家族さんとか、医療関係者とか、福祉関係者といろいろご相談をしていただきながら、認知機能が落ちたり身体機能が落ちた中でも、自分らしく過ご

していただけるような取り組みの強化をしていきたいと思っております。

次に障がい者の方でございます。

高齢化が非常に進行しておりましてそれに伴い障がい者もかなり増えております。

現在手帳を持ってる方が1万2000人ということで、それに対するそのサービスを提供する事業者も増えておりまして、300ヶ所以上ということでございます。

具体的取り組みといたしましては特に災害時に、障がい者の方が被害受けられる、被災をされるケースも多いことがございますので、できるだけ福祉の避難所と、それから地域とかですね、繋がるような連携できるような体制を作っていきたいということでございます。

あと障害者スポーツというボッチャっていうのをですね、区として、市全体ではですね、普及を進めておりますけれども、そういうスポーツを通じた住民間交流っていうのも進めていきまして、障がい者理解の促進に努めていきたいというふうに思っております。

あと障がい者におきましてもやはり複合的な課題を抱えた方が非常に大勢いらっしゃると思いますので、そういうような複合的な課題を抱えた方々に対する検討会議といいますか、具体的に自立支援協議会っていう、障がい者の支援機関の会議体がございますけれども、そういう中でそういう会議体を設置して、支援の取り組みを検討していくよう活性化をさせていきたいと思っております。

あと障がい者の皆さんですね、自立するためには、やはり地域でグループホームとか、地域でお住まいになることが多くなると思うんですけども、それはやはり地域との繋がりもですね、非常に重要になって参りますので、民生委員さんとか地域の方々との繋がり、の仕組みも構築をしていきたいと思っております。

子どもは子ども部会になりますので省かせていただきまして、横串を刺すような形の包括的な支援体制の充実のところでございます。

複雑多様化って言いましたけれどもやはり高齢化とか、孤立とか貧困とかケアラーとか、様々な課題がございます。

そうした中、社会的な繋がりが希薄な世帯の方をどう支援していくのか。

いうところ、また地域でもですね、ちょっと気にかけていただくような取り組み。

地域活動協議会でもいろんな取り組みをされておると思いますが、そこを一層推進をして参りたいというふうに思っております。

包括的な相談支援っていういまして、高齢で言いますと包括支援センターでありますとか、介護の事業者さんとか、また障害でも障害福祉サービスの事業者さんとかの関係者さんがいらっしゃいます。

そういう方々と顔の見える関係を作りながら、情報共有をしたり、網の目のような体制を作りつつ支援していくような研修会ですね、これの充実強化をしていきたいなと思っております。

あと先ほど障害者スポーツ、ボッチャの話をさせていただきましたけれども、なかなか地域福祉活動の担い手がなかなか難しいというところもございます。

一つ我々が進めておりますボッチャ普及指導員っていう方で大学と連携しながら、ボッチャを教えていただくような方、育成をしておりまして、今までなか

なか福祉とちょっと関係がないような方もですね、こういうポッチャを通じて障がい者とか、高齢者の皆さんと接するような、接しながら支援していくような、そういう担い手づくりも合わせて進めていきたいと思っております。

あと関係機関、いろんな関係機関もございます。

医療関係、介護関係、訪問看護ステーションとか、様々な機関のその横の連携をですね、作って情報共有をしながら、ネットワークを作りながら、取りこぼしのないようにですね、しっかり救えるような体制づくりをして参りたいというふうに思っております。

すいません。ちょっとざっくりでございますけれども以上が、概要でございます。

○弟子丸部会長

今説明を城東区の福祉プラン、ご説明いただきましてそれを加えまして、先ほどの全体の関係からご質問なりいろいろ意見なりを発言していただけたらと思います。

どうぞ。

○有田委員

うちの町会なんですけれども、さっき 75 歳以上半分ぐらいとおっしゃいましたけど、うちまだ、まだもっと 70% ぐらいが 75 以上なんですよ。

ひきこもりじゃないんですけども、個々に活動してはるみたいなので、結構元気なおじいさん、おばあさん、おじいさん言うたら失礼なんですけど結構多いんですよ。

で、多いんですけども、昔みたいに老人会があったんですけど今ちょっと老人会自体があまり活発でなく、そういう集まりがない状態が続いてるんで、そういう簡単にできる集まりみたいなものを増やしたらどうかと。

昔なんか区役所に集まって、今もやってるんですかね、老人会、区が主催している老人会。

○椿谷保健福祉課長

あれですかね老人福祉センターがやってる。

○有田委員

それから、離れてる各町会があるんですよ。

だからそういう方をもうちょっと拾い上げて、簡単にできるようなことをできたらいいかなとは思います。

○椿谷保健福祉課長

各地域でもかなり居場所づくりとかですね趣味のことをやったりまたラジオ体操をやっていたりですね。

○有田委員

百歳体操とか。

○椿谷保健福祉課長

ふれあい喫茶とか食事サービスとかね、いろんな居場所を作っていたりするので、できるだけそういうところにもですね少し参加いただいたり、あと老人福祉センターでも、老人、高齢者向けのもですね、趣味の教室なんかもやってますので、できるだけそういうところで参加いただけるように。

○有田委員

そうですね。

だからこの昔なんかやってはった人は、積極的なんですけども、なんていうか、この5年間で75を超えた人っていうのはあんまり積極的じゃないんですようちの町会では、だからそういう形でアプローチをしていったらいいかなと思います。

うちの町会の話ですけども。

○門田委員

町会に入っておられる方はある程度把握できると思うんですけど、でも町会に入っていない。

入っても途中でもういいわって言うてやめはる、やめてる人も何人かおられるんですけども、なかなかそういう人たちとの関わりがないから、ある程度町会に入っていたら、何か町会で何かあったときに、皆さん呼んでも町会の75歳でもお年寄りでも若い人でも、そうやって呼べることができるんですけども、その町会に加入していただく方法がなかなか難しくて、毎年減っていく。

減っていくっていうんで、ある程度そうですね工事、大きなマンションでしたらそこで入っていただいてたんですけども、こないだから去年ぐらいから半分の方がもうやめましたっていう感じになっていく。

なんか、だんだんだんだん町会に加入していただく人が減ってきているのが、何かちょっとそれは残念ではそれはある程度もうちょっとうまいこと介入するような方法があればいいんですけども、なぜ加入しないかっていうのもいろんな意見があると思うんです。

町会のお金で何をしているんだって言われたときに、はっきりとこういうことをしてるっていうのが、なかなか私もあんまり知らないんですけども突っ込んで聞きたくなるようなこともいっぱいあるんですけども、なかなかそういうので町会加入というののが1つのね、違うかなと。

○河野委員

関目東ですけども。

老人クラブ関係ですけども、老人クラブの方があっちで百歳体操をやっておられるんですけども、老人クラブに入っていない人が、そこに行くともう入っていないからあかんよって

いわゆることが、いうことで老人クラブ入ってなかったらいけないのかなあというのが、1つはそういうことが言われましたね。

せっかく行ってるのに、おたくクラブ入ってますかいうて聞かれるというようなことがあるんでそこがちょっとね、柔軟的にやってもらったほうがという感じです。

先ほどいうたね、町会の関係。

いつも新しいマンションが建っているところがあるんですけども、そこは建つ前はもう業者の施工業者の方が、全員町会に入れますよというふうな話があったらしいんですけども。

今度、マンションが建って管理会社が管理すると、管理会社の方はそこまできつく言えない。

町会に入っていない、必ず入らなあかんというのは言えないと。

いうことで、今新しいマンションのところは一緒に加入率が低いというところがあります。

知り合いのところもそうなんですけども、だんだん高齢化になって、姿見いひんになったらどっかの施設入ってるとか、というのが平屋の方で、多くなっているということがあります。

町会の加入もどこも一緒にやっぱり減ってきてるのあるんですけども、1つはもうずっと行事がコロナ禍で行事がなかなかできなかったと。

ということで、町会をアピールする場がなくなったということがあって、どうしても何してるんやというのはね、確かに言われるんで。

これからもうねコロナもちょっと落ち着いてはないとは思うんですけども、昔ほどの抵抗感がないんで、行事を再開したいなとは思てるんですけども、再開するとなるともうちょっと楽しくきたんでね行事してないんで、また1からやるんかとなるとなかなか協力を受けられるかどうか、ちょっとそこがこれから。

どうしようかなと。

一応私も町会の方で役やって、今まで高齢者、敬老会を大きくね、小学校の講堂を借りてやってたんですけども、コロナ禍でなってからはもう配るね、取りに来ていただくとか、そういう形になってしまって、もうそろそろそういう敬老会の、そういうところを借りて大々的にして欲しいなという意見も高齢者の方からありますんでね。

そういうのはそこでやって、いろんな普段やってる踊りとか歌を歌うとかね、そういう披露する場を欲しいという意見もあるんで、ちょっとそれも今年は考えなあかんのかなと。

やるとなったら、大変やなというのがね。どうしようかなというところがありますけども、できたら何とかやっていきたいなと。

それで皆さんの町会とか来たらね、いろんな話ができるというところで、行かなかったら、もう今、問題はなかなか増えないかなという。

何とかちょっと頑張っていきたいなと思ってます。

○椿谷保健福祉課長

コロナの影響ってほんまおっしゃってるように大きくてですね、百歳体操の拠点もすごくあったんですけど、コロナで一気にくんと落ちてしまって、なかなかちょっと戻らないというような状況もございまして、コロナでの一旦自粛の影響がですね、かなり大きいと、がん検診の受診率もですね、コロナ前までにまだ戻ってなくてですね、なかなかそこはやっぱりかなり影響が大きかったかなっていうところ。

○高橋委員

ちょっと今までのご意見とは違う話になるんですけど。

今後にどんなことができるのか、課題がいろいろあると思うんですけど。

これね、地域のネットワークをもっと強化したい、高齢者も外に出たい、出るようにしていきたいということなんですけど。

どうしたら、もっと出るようになるのかな、繋がりが大きくなるのかなって考えると、なんか自分の経験の中では、義務教育、小学校に通ったときっていうのが一番地域での繋がりが強い時期だったなと思うんですけど。

例えば、週5日無理だとしても、日曜日だけ小学校に高齢者の方が通うスクールみたいのをやるみたいな、その義務教育まではいかないんですけど、そのぐらいの形で高齢者の方が通って、例えば、携帯の使い方を教えてもらうとか何でも

いいんですけど、学校に通うっていうことをしたら、例えば、そうですね実は一人一人の状態も、誰々さんが今週来てないとか、別の学校での繋がりにいうのが必ず近所の人たちなので、そういうものができたらいいのかなと思ったりしました。

○弟子丸副議長

今ねそういう地域の繋がりで、面白い。

○有田委員

結構ね、囲碁とか、将棋とか、詩吟とかやってる学校でやってはる方はいらっしやいますよね。

○弟子丸副議長

その中には子どもさんも参加されてるんですか。高齢者だけじゃない。

○有田委員

高齢者だけですね。

○高橋委員

そういったのっていうのは、どちらで参加するようになるんですか。その申し込みというか。

○有田委員

一応聖賢小学校では、生涯学習というのがあって、そこで公募してるんですね、生涯学習。

生涯学習ルームっていうのがありますよ。

○高橋委員

なるほど。じゃあすでにあるっていう。

○有田委員

そうですね。

○弟子丸副議長

その中に若者とか子どももね、入り込んで、将棋とかね、囲碁とかは結構子どもさんもね、若い世代の人でも結構関心が高まって。

何か生涯学習に関してはここの運営案の中にあつたように思うんですが。

○椿谷保健福祉課長

そうですね。生涯学習については市民協働のまちづくりのほうですね。

おっしゃってるように生きがいづくりですね。非常に重要だと思います、いろんな資源があるんでね、生涯学習があれば或いは地域活動協議会でもいろんな取り組みされてますし、また老人クラブ、ちょっと今おっしゃったように、もう少し開かれたみたいなお指摘もあるんで、できるだけそういうとこに参加をしていただける方をどう増やしていくかみたいなのところも、考えていく必要があるかなと思います。

○高橋委員

令和6年まで今年、これからまた7年と変わってくると思うんですけど、それまでの実施状況というか、進捗というかっていうのはどんな感じだったんですか。

○椿谷保健福祉課長

そうですね。地域福祉プランに基づいて、3月に1回ですね、進捗をホームページで公表をさせていただいておるんですけれど、概ね達成はできてるんです。

が、やっぱりちょっと達成が難しいなというのが百歳体操の拠点をふやしていくっていう目標があったんですが、ちょっとなかなかコロナの影響もあって戻らないということでそこはちょっと目標が未達成のところ。

あと認知症対策ですね、人材育成ということで認知症サポーターっていう方と、それからその認知症サポーターのもう少し研修を受けたオレンジサポーターっていう方。

それから企業団体に支援していただける、オレンジパートナー、この3つを目標数値挙げてやったんですけど、認知症サポーターがもう少しちょっと目標にまで行き着かないところがありました。

あとのオレンジサポーターとオレンジパートナーについては目標達成できたんですけど。

○有田委員

それは募集してるんですか。

○椿谷保健福祉課長

研修会をですね、社協の方で募集をしておりますですね。

○河野委員

研修会とかはなんか平日にやることが多いですね。

○椿谷保健福祉課長

そうですね。なかなか参加しにくいところはね。

○河野委員

参加しにくいですね。

どこどこの方で講演会やる研修をやるって、いつですかっていうたら平日昼過ぎからってなると、でまたやっぱり働いてる方もねおられるんで、行きたいなと思っててもちょっといけないなっていうのがあって、今講習会とか、講演でも日にちちょっと検討できない人がね、出席しやすいような流れがね、非常に、難しいと思うんですけどね。

平日になるとやっぱり働いてる方はちょっといけないかな。

ただ、動員がかかりますので、各町会何名出してくれとなるとやっぱり家におられるお母さん方とか、ちょっと高齢という方しかなかなか行けないんで。

それもちょうとねえなんとか。

参加しやすいような形でできたらなあと思います。

○椿谷保健福祉課長

多くの方がやっぱ働いてらっしゃいますんでね。

だからおっしゃるように平日の昼間は行きにくいところがね、あるのかもですね。

○弟子丸副議長

他にはどうですかね。いろいろ。

○河野委員

こういう社宅に訪問する際には。民生やってるんですけども、何か情報があったら行くこともあるんですけども、よく相談されるのが、そこのちょっと最近見いひんねんけども行ってくれとか言われるんですけどね、いきなり行って誰って言われるのも難しいところがありますんでね、その辺の近所同士の連携いうんですかね、つき合い、何か同じ町会で親しい人がおったらちょっとどうですかと

聞けるようスペースがね、できたらいいかなと思うんですけども。

なかなか、民生委員やから行ってくれって言われても、はい行ってきますという風にできないところがあるんでその辺の情報を持っておられる方とかにですね。そういう風な連絡をなんかできないかないうのはちょっと考えてるところなんですけども。

○椿谷保健福祉課長

なんか地域と少しでも繋がりがあれば、そこを端緒にこうねコンタクトができるんですけど全く何もないとおっしゃるように。

来年度から区社協に見守り相談室というのがあるんですけども、そこがちょっと地域を回らせていただいて、特に何か気になる方いらっしゃいますか、どうですかみたいな意見交換会をですね、来年度からちょっと始めていこうという話になってますので、そんなときは少し、そういうような方の情報をいただければですね、一緒にちょっと考えていくような取り組みを来年度以降ですね、進めていきたいなと思ってます。

○弟子丸副議長

すみません、今の来年度からどこで。

○椿谷保健福祉課長

社会福祉協議会の中に見守り相談室っていうのがありまして、地域で見守っていただける方と連携ですね、こういう機関との連携をちょっと密にさしていたらと。

○有田委員

福祉協議会ってそのゆうゆうのことですね。

○椿谷保健福祉課長

そうですね。

なかなか民生委員さんだけとか、地域だけではなかなかちょっと行きにくいところとかね、なかなかちょっとアプローチしにくいところもあろうかなと。

○河野委員

町会に加入するいい方法なんかないですかね。

○椿谷保健福祉課長

一応、区役所としても町会加入促進のプログラムみたいな作ってですね。

なかなか難しいんです。

○有田委員

若い方はどうなんですか。

○高橋委員

僕はあまり抵抗ないんですけど。

やっぱり、同世代の人たちは大体やっぱり面倒くさいなっていう人が多い印象です。

そうですね。

○有田委員

繋がりが面倒くさいということなんですか。

○高橋委員

そうですね。

あとは自分たちの仕事があって子どもの面倒があって、家のこともしなきゃい

けないんで、さらにこう地域の別の何か仕事をしなければいけないというところで、やっぱり自分たちの時間より減ってしまうっていうので、ただでさえやっぱり仕事とかで圧迫されてる中で、他のこともってというのが、余裕がないのかなとは感じます。

○河野委員

それと子どもさんがまだ小学校までの上の方は町会に入ってて、子ども会とかそんなんで携わってくれるんですけども、子どもさんがもう卒業したから、中学校なんかいったら、もううちも中学校行きましたから、もう町会やめますと、もうはっきり言う人もいますんで。

そうじゃないやろと思うんですけどね。

今の人子ども小さいときまでは、もう町会入って、なんか行事なんかに参加できると、で中学校になったらもうほとんどね子どもらは子どもらでやってますよね。

別に町会入ってる意味ないんちゃうかいうのもやめますって、そうしているいう人も、もうはっきり言いますからね。

考え方が、何かね。

○門田委員

難しいですよ。

町会はすごくいいもの、いいものって言ったらおかしいですけどね何かあったときにそういうお手伝いするみんながお手伝いしてこそあれですけどやっぱり、わからんでもないんですよ若い人たちも考えてるのは何かそれは入ると、何か役があたるんじゃないかと。

役があたったら、自分の生活がまた狂ってくる。

だから、やめときますっていう考えの人が多分多いと思うんですよ。

もうわからんでもないんですけどね私達もこう役があって、家のこともしながら役のことね。

それで理解ができたならそれでいいんですけどなかなか家族全員が理解できなかったら、町会は何なんだ、町会入らなくても生活はできるんだっていうのがあったら、多分町会には入らないと思うんですよ。難しい。

だからもっと何か町会なんかこういうすごく町会がいいんだっていうようなアピールがなかなかできないっていうのか。

ちょっと残念かなと思うんですけどね。

なんか、うん。

私たちは何か町会はまだ入るもんと思って入って、入居して入ってますのでね。

でもそれを、ああいいものかって言われたらちょっとこっちもね、何か考えてしまいますけどね。

何か、何かいい方法がないかなと思いますね。

○椿谷保健福祉課長

若い方なんかも、災害時のボランティアとかねすごい若い方も参加してされてるので、全くそのボランティア意識がないっていうわけでもないんでしょうけどね。

この地域のこのボランティアの方へつなげる方策をですね、やっぱり難しい。

○弟子丸副議長

やっぱり希薄化、さっきのね、やっぱり高齢化とともに希薄化、地域の中でもそういう若い人とかいろんなね、関係ですよ。

希薄化になっているのか。

その辺が1つあるのかなあと思うんですよ。

それがね、それをどうするかっていうのが大きな課題じゃないかなと思うんですけど。

やっぱりそういう町会も今言われたように何をするとところなのか、逆に言うたら新しくそこ、例えばあるマンションに入居されて、全然わからないですよ。だからほんで周りが、そういう説明をするとかいうこともあんまりないと思うんですよ。

だんだんこう希薄、今までやって一緒に住んでたら、いろんな会話ができたのが、もうね、全く知らないところ行ったら隣近所の話することもなかったら、全く知らない状況が生まれてくる人っていうのは、今多くなってきたるんじゃないかなって感じがするんですよ。

なんかそういうところで、どういう繋がりを持ってったらいいのかなと思って今地域で清掃活動がありますよね、たまにね。

そういうのが、少しでもその負担にならないね、地域活動でそこにいろんな世帯が参加できるように、そこから高齢者とか若い人とか、いろんな繋がりがある1つ私、できないかなあっていうのはちょっと思ってるんですがね。

こう運河が何か今、城北運河といいますか、あそこ今散歩、こう歩くと、その地域ごとに、その分、地域のブロックっていうんですか、その範囲でお掃除をしてはるんですよ。

それで、結構若い世帯の方も来てはるし高齢者の方もきてはるしね、そんなに毎週毎週じゃないし、月1回でもないし、何ヶ月かでいっぺんということなんで、そういうところから触れ合うというんですかね、何かできないかなっていうのはいつもこう考えてるんですけどね。

そういうところで若い人と繋がって次の段階にこうね、地域をいろんな行事に参加、結びつくことってできないものかなという。ちょっと思い当たるんですけどね。

○有田委員

結構、高齢者の方は若い方に声掛けはるんですけど。

嬉しがって声かけてはるんですけど、あんまり反応がないみたいで。

高齢者も聞いて欲しい。聞いて欲しいんですよ。仲間に入って欲しいんですけども。

うちなんかは、うちの町会なんか平場なんで、結構今、70後半の人なんかは若い人にも結構声かけてはります。

○河野委員

そういうものの1つに前は運動会、町会で運動会してまして、その時に走るんやったら子どもさんね、ちょっと出てえなりレーに出てえないようなことで、いろいろと声掛けしてきていただいたんで、その繋がりでもちょっとお父さんにねちょっとちょっと町会手伝おてえや言うてちょっとそういうのも広がったんですけども。

さっき言いましたまた運動会がなくなったということでそういう機会がなく

なってきたんで、ただ運動会再開しようかなという話はちょっとまだ出てないんですね、やはり時期的な部分もあるしということで、そういうふうな行事関係がだんだん減っていく中で、何とかね、できるやつはやってきたというのはあるんですけども。

それにやっぱし手伝っていただく参加していただくためにアピールして、子どもさんをターゲットになんかやるような、子どもさんを連れてきて大人もお父さんお母さんというふうな、ちょっともう何かまた新しい新年度から考えていかなあかんかなとは思ってるんですけど。

○高橋委員

運動会とか、それが何か、町会ごとで競い合う感じの。

○河野委員

そうですね。うちでしたら関目東で 12 町会あるんで 12 町会対抗のいうことでやってたんですかね。

○弟子丸副議長

どうですか。もうそろそろ、時間も迫って参りました。

何か一言ずつでも、有田さんの方から。

○有田委員

ちょっと福祉と関係あるかどうかわかりませんが、昨日ちょっとあった話なんですけど、1 人、1 人住まいではないんですけど、消火器古いから変えませんかという電話がかかってきて、でその人がうちの町会、うちの家に来て、消火器なんかどうしたらいいんですか問い合わせがあって、これ消火器はもう一応町会で全部そろえてるんで、それは詐欺だからやめてくださいという話をしたんですけども。

福祉関係ないですけどそういう詐欺に遭う人が多いというのが、あんまり相談もできへんわけですね、あの 1 人で住んでる人は、そういうやっぱ相談をしやすいようなまちづくりというか、そういうのをやっぱしていかなあかんというふうには思いますけど。

○高橋委員

あとすいませんちょっと 1 個だけちょっと、福祉の枠をでてくるかもしれないんですけど、見守りとかをしている中で最近、冬場っていうのもあって、火災が結構目につくなっているところで、古いリチウムイオンバッテリーとか、あとは古い家電製品がやっぱり原因で発火するっていうことも、結構あるので何かそういったところも気にするポイントに加えてもらえたらなと思います。

○河野委員

イオン電池なんか無償で、処分してるなんか話なんかみたいなことあるんですけど。

○椿谷保健福祉課長

何か電灯とか電池とかね、そういうのは何かその回収ボックスがあって、そこに入れていただいてっていう。

○河野委員

知らない。

○高橋委員

そうですね。

○河野委員

どこにあるの

○有田委員

どこでも。電池の回収は区役所に書いてますし、スーパーにも置いてますし。

○高橋委員

やっぱりその辺、高齢者の方は置きっぱなしになっているのが心配ですね。

○有田委員

一番わかれへんのは、認知症の人はなんていうか、ぱっと目わからないっていうのは、一番怖いですね。

最近感じたこと。

○椿谷保健福祉課長

軽度認知障害とかまずね、グレーゾーンみたいなところがあるので、その段階でやっぱりどっかその地域と繋がっていただいたり、何らかの繋がりがあれば、だんだんちょっとね進んでいけばちょっとおかしいな、みたいなことで相談に繋がっていくんですけど。

おっしゃったようにその繋がりがなくてですね、なかなか外から見ても、発見しづらいっていうのがあるかなと思うんで。

○河野委員

近所の方がね、見てたら大体わかると思う。

ちょっと最近あの人おかしいな。ただそう思っても、どこに言おうかな。

本人さんに言うわけにいかんし、どこに相談したらいいかわからないというようなことあると思うんで、たまたまやったら 1 周しとったら、ちょっとあそこの人、最近おかしいよ、というような話があるんですけど。

あとそれをどうしようかなと。

役所の方に連絡して、ちょっとこの人ちょっとということまではできるんですけど。

他の人がそういうふうな情報持つてる人がいると思うんですけどね。

それをどういうふうに、伝えたらいいのか。誰に言うたらいいんかないのがわからないところがあるのかな。そういうのでなんか知らせる方法もね考え方。

○門田委員

地域でね、見守り相談員さんがゆうゆうのとこ行ったらいてはるので、聞いたほうがいい。

私のとこ鯉江ですけれども、人を知っているんで、やっぱりそういう人が居てくれるということを、地域の皆さん全員じゃないですけれどもある程度町会長さんとかってふうに知ってもらう方法で、本当は来てもらったらいいんですけどね会議のときにそういう方法として、自分とこの地域はこういう見守り相談のこの人がおられるので、何かあったら来てくださいっていうような、多分、ご存じは。

○有田委員

ないです。

○門田委員

ないですか。

いてはるんですそういう人が、必ず何かあったら、私はその人に電話したりす

るんですけれども、やっぱりそういう人をもうちょっとこうPR的に、向こうもして欲しいなというのはありますね。

ふやしていいのかどうかという、するべきだと思うんですけれども。

○弟子丸副議長

そうですね。

だから町会とか、自治会でも何か役割分担ありますよね。

地域、地域、今言った、地域、協議会の担当者とか、子ども何とか青少年担当者とか、だから私もそういう高齢者っていうか、見守り隊になるのかどうなんかわからないけど、相談されることあるんですよ。

私も大きな結構マンションで、マンションの中で、マンションでドアが似てるから、階を間違っってどンドンされるんだけど、この階じゃないから案内するけど、その人自身よりも家族に伝えた方がいいのかどうか。

ちょっと家族さんがいらっしゃるのわかってるからその人にその両親っていうんですか、高齢者の方が、状況がそういうふうに、同じマンションの中に間違っって、ノックされたりされてます。

だけど、特に家族に直接言うのはね、家族も普段見てなかった、またね他の人から言われるのもあれかなあとか、家族とあまり関連性がないとね、付き合いがないと。

その言い方自身も難しいんでどうしたらいいんかなっていう、相談っていうか話し合ったことあるんですよ。

だけど、そういうときに地域でも、誰に言ったらいいのかがね。

同じ大きなマンションでもわからない。

だからそういう見守り隊係って言ったらおかしい、担当者がね。町会の中でも、何か。

○門田委員

PR、ゆうゆうとかやったほうがいいと思いますね。

○弟子丸副議長

まず、そういう包括センターまで行くにはちょっとね、仰々しいなんていうんで、じゃなくてちょっと近所でね、話ができる窓口っていうんですか。

○椿谷保健福祉課長

地域には民生委員さんもいらっしゃいますし、プラスちょっとここでね書かせていただきますように、チームオレンジサポーターっていうことで、チームでこう支えていただけるような一般の方をですね、ふやして行って、身近に相談していただいてそれが専門機関に繋がるような取り組みをですね、ちょっとやっぱりやっていく必要がある。

○弟子丸副議長

だからそのオレンジサポーターとかね、そういう制度とかあるのは知ってるんですけど、どの方がどうなんかいというのがわからないんですよ。

だから、直接そのオレンジサポーターの人に言っているのかとかね、そういうのが。

だからまず、ゆうゆうまで来るんじゃないけども、本当はやっぱりその地域、町会とかに誰か。

もっとこの人に言ってた、だから逆にね町会にそのオレンジサポーターの資

格なり持ってる人がいるのを情報ね、知ることができたら嬉しいなと思うんですけどそれは難しいんですかね。

○椿谷保健福祉課長

そうですね。

これ、ちょっとこのチームのまだ数もね、全然少ないんで、これからの課題かなと。

広報誌でもね、高齢者福祉月間でもし気づいたらここに連絡してくださいっていうのはもう、毎年定期的に発信をさせていただいてますので、今のその地域の相談と併せてそちらの方ですね、できるだけ周知できればなというふうに思います。

○弟子丸副議長

わかりました。

そろそろ時間に、まとめていく時間になったんですが、本当に最後に何かお話ありますか。

いいですか。

ちょっと今日の意見は、ちょっと簡単ですがまとめさせていただくんですが、やっぱりこの城東区の地域福祉プラン案を受けまして、やっぱ高齢者の進展とか、高齢者世帯の増加そして地域に繋がり、希薄化とかそういう福祉の課題の複雑多様化で、地域の、地域福祉を取り巻く状況がこう変わってきているっていう中で、どうしていったらいいのかっていうことで 1 つ皆さんの方から出たのはやっぱり町会ですよ町会の 1 つの中で、その人間性がこういろんなね、見守り隊があったりいろんなね、触れ合う機会とか作られているけれど、逆に言うたら、そういう町会に入ってこられる方が、だんだん少なくなってきて、減少していったって、逆に言うといやもう町会に入ってたのに辞められたりとかいうことで、なおさらこういう複雑な行政の中に接する場がなくなっているというところでは、同じような課題を抱えてはる。

それを町会にどう入ってもらおうかということも 1 つやっぱりアピールして、それは行政のね、区役所の人たちとともにやっていく必要があるんじゃないかなあというのを皆さん、聞かしていただきました。

それともう 1 つはやっぱりその繋がりを持っていくの点では若い世代、それからやっぱり、高齢者世代、いろんな方たちとしていくところでは今ある、そういう生涯、生涯学習ですか、そういう取り組みとか、老人福祉センターとか、そういうところへの働きかけということとあとはやっぱり、この間町会があっても、やっぱりコロナ禍による影響ってのは大きかったいろんな行事が取り組めなかった、で今ちょっと落ち着いて、ちょっとそういう活動がね、動きができるようになった中でも、やっぱり再度その町会の運動会とか、人と、若い世代或いは様々な人と接する場をふやしていくために、やっぱりその際、町会で 1 つはそういう再構築をしていく必要があるんじゃないかなという意見が出されたと思います。

そこによって人と人の繋がりを持ってやっぱりこの複雑な地域福祉を取り巻く複雑な情勢の変化の中で、それこそ今、基本的な考えのね、目標を達成していく 1 つの取り組みではないかなということでもまとめさせていただきますか。

よろしいでしょうか。

もし、足らない意見があったら言ってください。
今度は全体会になりますので、よろしくお願いします。
どうもありがとうございました。